

理念

主に難治・慢性疾患の子どもを対象とした医療・保健・療育・福祉サービスの県の中核機関として、安心・信頼・満足の得られる医療・ケアの包括的なサービス提供を行います。

基本方針

- 高度な専門知識と技術の向上に努め、良質で安全な科学的根拠に基づいた医療を、十分な説明と納得の上で提供します。
- 地域の医療、保健、療育、福祉、教育機関との機能分担・連携を図ります。
- 小児の医療、保健、療育、福祉にたずさわる専門家の育成、学生教育への協力および臨床研究を通じて、県下の小児保健医療の発展と向上に貢献します。
- 県立病院の使命としての政策医療を推進します。

診療科等のご案内

◆ 診療科目

小児科（総合内科・神経内科・アレルギー科）
精神科（こころの診療科）、整形外科、小児外科、眼科
耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科

◆ 外来

- 予防接種、肥満、発達障害、ダウン症
- 内科系：頭痛、心臓内科、腎臓内科、内分泌・代謝科、血液・リウマチ科
 - 外科系：泌尿器科、脳神経外科、形成外科

◆ 病床数 100床

ご利用案内

◆ 外来診療

- 小児科（総合内科）を除き、原則として予約制です。
- 診療時間 午前 9時00分～午後 5時00分
- 予約受付時間 午前 8時30分～午後 5時00分
- 休診日 土・日・祝日・年末年始

◆ 初診時の注意点

- 0～18才未満の方を対象としています。

◆ 初診時に持参いただくもの

- 保険証（国保・協会健保・共済等）：受診時毎月提示してください。
- 母子健康手帳（乳幼児の場合・こころの診療科受診の場合）
- 医療券（公費負担をご利用の場合）

★予約直通電話：077-582-8425★

小児科（総合内科）は予約なしで受診していただけます。
診療受付は午前11時30分（月～金）までです。

地域医療連携室ご利用案内

- 受付時間 月曜日～金曜日
午前9時00分～午後4時30分
（土、日、祝日、年末年始は除く）
- 直通電話 077-582-6222
- FAX番号 077-582-6276



チャム&リリ



～病院広報～

滋賀県立小児保健医療センター
（平成27年1月発行 Vol.18）

平成26年10月より、遺伝カウンセリング外来を開設しました

遺伝の問題で悩んでいる方へ、遺伝の専門のカウンセラー（医師）が分かりやすく説明し、さまざまなご相談に応じます。



こんなことで悩んでいませんか？

- ・自分自身や血縁のある人が持っている病気は遺伝するのだろうか？
- ・血族結婚をするとどのような遺伝的影響があるか。
- ・遺伝について不安がある など

<実施日>

毎月第3水曜日の午後3時まで

<カウンセリング料について>

初回

1時間につき、5,915円。以降、30分毎に2,026円加算。

2回目以降

30分毎に2,026円加算。

※遺伝子検査の必要が生じた場合、これにかかる費用は、別途徴収させていただきます。

<相談方法>

相談は予約制です。

小児保健医療センターへ通院されているお子様がいらっしゃる方は主治医を通して、遺伝カウンセリングのご予約をお取り下さい。

それ以外の方は、下記までお電話下さい。

カリヨンダイヤル（遺伝カウンセリング予約電話）
直通（077）582-6584
受付時間：月～金曜日 午前9:00～午後5:00

※ 相談の内容、個人の秘密は厳守します。

職員研修(針刺し事故防止)を実施しました。



今年度の全職員対象の医療安全研修(第2回目)として、院内感染防止対策委員会と医療安全委員会との合同で「針刺し事故防止研修」を実施しました。

針刺し事故は、両委員会対策・予防策を行っているところ

ですが、近年、針刺し事故が一定件数発生している事や事故後の対応方法の周知不足が見られることから、本研修を実施することとなりました。

今回の研修で視聴した日本環境感染学会教育委員会作成のDVD「事例から学ぶ針刺し切創、血液、体液曝露の脅威」は、大変リアルで各職種が日常の場面でのどのような事故を起こす可能性があるのかを知り、防止策の必要性が理解できるものでした。ドラマ仕立てのDVDに参加者も興味深々、「ヒヤッ」とした場面から針刺し事故を未然に防ぐ意識が高まりました。

当院の針刺し事故現状報告として、過去の対策が取られた経緯とこれを継続する重要性が報告されました。また、事故発生後の対応方法について、感染管理認定看護師より説明を行い、マニュアルの再確認ができました。

研修会で配布した「針刺し切創防止版」マニュアルのチェックリスト(地方公務災害補償基金作成)は、受講後も定期的に自分の業務環境を振り返るために活用していきたいと思えます。

今回の研修は全職員の95%が参加しており、前年度の研修時より高い参加率となりました。「合同での研修会は参加しやすかった」というアンケート結果をふまえて、今後も職員が参加しやすい研修を企画し、研修内容が実践に活かされ、安全で質の高い医療が提供できるよう、各職種が力を合わせて取り組んでいきます。



小児アレルギー疾患の看護について

全国規模で食物アレルギーのこどもたちの対策が行われていることを受け、滋賀県も平成25年度より「アナフィラキシー・ゼロ作戦」と題して、保育園・幼稚園・学校関係者、保護者グループの代表とともに、食物アレルギーの対策に取り組んでいます。小児保健医療センターは、その中核として情報の交換や発信を行っています。(詳しくは当センターアレルギー科のHP参照)

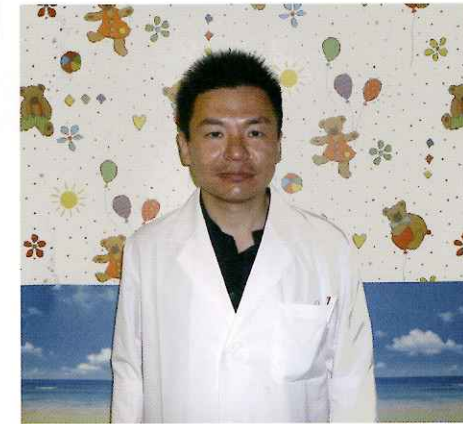
小児保健医療センターには、3人の小児アレルギーエドゥケーターが在籍しており、院外向けの勉強会や「こどものアレルギー教室」で講師を務めています。「こどものアレルギー教室」では季節ごとの情報発信を行い、参加されたご家族のご自宅での工夫や悩みをお聞きし、時にアドバイスを行っています。また看護師で構成する看護専門コースにも「アレルギー疾患」コースがあり、院内向けに勉強会を開き、アレルギー疾患のあるこどもたちの看護の質の向上に努めています。

生活をしながらアレルギー症状を上手にコントロールすることは大変ですが、こどもの成長シーンや季節ごとにちょっとしたコツがあります。それをお伝えするのが、私たち小児アレルギーエドゥケーターや看護師のつとめになります。アレルギー疾患で小児保健医療センターに来られましたら、「どうしたらいいの?」とお声かけ下さい。ぜひ一緒に考えましょう。

小児アレルギーエドゥケーター
吉弘 径示



新任医師の紹介



【氏名】

まつばやし しょうへい
松林 昌平

【専門】

小児整形外科

【ご挨拶】

小児整形を究めるために赴任しました。半年間と短い間ですが、よろしくお願いいたします。

当センターのボランティアさん



今回は、11月からボランティアを始められました、
どうかい 道海 郁さんをご紹介します。

どうかい 道海さんは臨床心理士を目指して勉強しておられる学生さんです。外来診療の待ち時間の合間に暇を持て

余している子どもたちと毎週水曜日に遊んでいます。「もともと子どもは好きですが、臨床心理士を目指す上で、もっと実践を積みたいと思うようになったのが、ボランティアを始めたきっかけです。」

「最近では子どもたちの行動の意味を考えるようになりました。」と語ってくれる^{どうかい}道海さん。「怒ったりする子どももいるけれど、怒っているのには何か理由があるはず。その理由が分かったとき、子どもともっと仲良くなれるような気がします。」と受付前にある積木や折り紙で今日も子どもたちと遊んでいます。

当センターではボランティアを募集しています!

詳しくはこちら: <http://www.pref.shiga.lg.jp/mccs/>